図画工作科

子どもが「学びをつなぐ」図画工作科学習

二宮　優子　　新屋　桃子

昨年度までの研究の概要

図画工作科において育成をめざす資質・能力は、「生活や社会のなかの形や色等と豊かにかかわる資質・能力」である。図画工作科研究部では「学びをつなぐ」子どもの姿を下のように捉えており、子どもが造形的な見方・考え方を働かせながら、自分にとっての意味や価値をつくりだしたり見いだしたりすることができる授業を展開することで、資質・能力の育成をめざしている。

○　これまでの学びや生活経験、授業で学んだ新たな視点を基に対象を捉える姿
○　表現や鑑賞の活動をとおして、自分にとっての意味や価値をつくりだしたり見いだしたりし、仲間の見方や感じ方にふれることで、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりする姿
○　日常生活のなかにある形や色等を自分なりの見方や感じ方で捉え、自分にとっての意味や価値を見いだそうとする姿

過去２年間においては、導入とふりかえりに焦点を当てて研究を進め、主に次のような成果が得られた。

○　題材との出合わせ方や毎時間の導入の仕方を工夫することで、製作への意欲をもたせ、子どもが自分にとっての意味や価値をつくりだすための手掛かりを与えることができた。
○　写真や記述により、製作途中の作品や製作過程、完成した作品等の記録を蓄積させていくことで、子どもは、適宜記録を見返し、自分の働きかけや作品に対する自分にとっての意味や価値を見いだすことができた。

今後、生活や社会のなかの形や色等と豊かにかかわっていくためには、授業においてつくりだしたり見いだしたりした意味や価値を学びとして自覚することや、授業をとおして自分の見方や感じ方の広がりや深まりを実感したりすることが必要であると考える。そこで、今年度は題材計画の「生かす」段階における鑑賞の活動を工夫することで、ふりかえりの一層の充実をめざすこととした。

研究内容

1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方
(1)　「生かす」段階における鑑賞の活動の工夫

研究内容の基本的な考え方

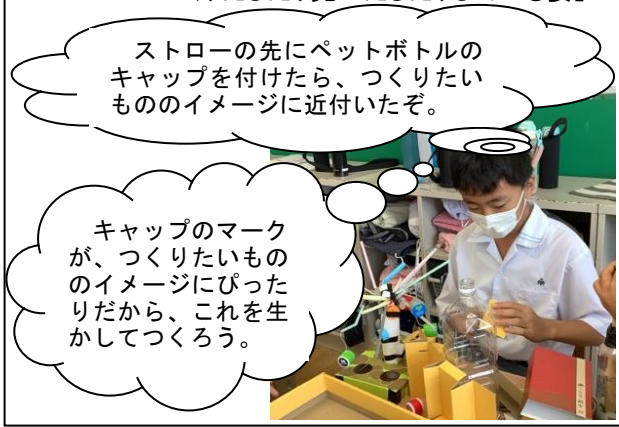
1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方
(1)　「生かす」段階における鑑賞の活動の工夫

図画工作科は、造形的な見方・考え方を働かせながら創造活動を行う教科である。造形的な見方・考え方とは、「感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色等の造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと」である。自分のイメージをもちながらつくりだす意味や価値を、本校では「自分にとっての意味や価値」とし、子どもが自分なりのこだわりをもって創造活動をしている姿を、「自分にとっての意味や価値をつくりだしたり見いだしたりしている姿」と捉えている。

図画工作科学習において、子どもは無意識のうちに仲間とかかわりながら自分なりのこだわりをもって、右のような造形的な資質・能力を発揮している。これらの資質・能力は、その時間やその題材でつくりだしたり見いだしたりした自分にとっての意味や価値を自覚したり、自分の見方や感じ方の広がりや深まりを実感したりすることをとおして、学びとして意識することができるようになると考える。そのことが、生活や社会のなかの形や色等と豊かにかかわろうとする子どもの姿につながるだろう。

今年度は、題材計画の「生かす」段階における仲間との鑑賞の活動を右の３段階で行うことで、自分にとっての意味や価値を自覚したり、自分の見方や感じ方の広がりや深まりを実感したりすることができる子どもの姿をめざす。

【自分にとっての意味や価値をつくりだしたり見いだしたりしている姿】



【無意識のうちに発揮している造形的な資質・能力】

- ○　見たり感じたりする力
- ○　次にどのような形や色にするかを考える力
- ○　考えたことを実現させるために用具や表し方を工夫する力
- ○　一度つくったものを改めて見て、新たなものをつくりだそうとする力

【「生かす」段階における鑑賞の活動の3段階】

① 自分の作品を見つめる
② 仲間と対話しながら自分や仲間の作品を見つめる
③ 気付いたことや感じたこと、考えたこと等を記述する

【鑑賞の活動とめざす姿】

鑑賞の活動	① 自分の作品を見つめる	② 仲間と対話しながら自分や仲間の作品を見つめる	③ 気付いたことや感じたこと、考えたこと等を記述する
	完成した作品の説明や作品への思いを表す最適な方法（写真や動画、テキスト等）の選択と表現	互いの作品を直接見たり触れたりする活動	①②を経て、気付いたことや感じたこと、考えたこと等の記述

めざす姿

自分にとっての意味や価値の自覚

見方や感じ方の広がりや深まりの実感

研究の実際

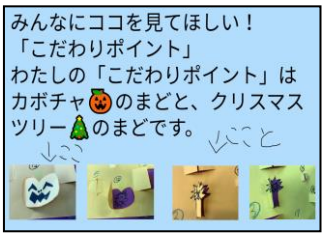
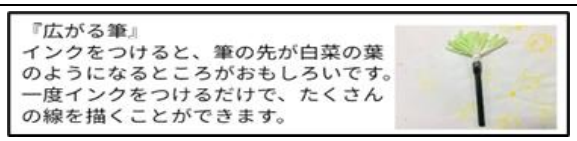
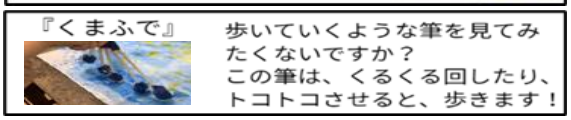
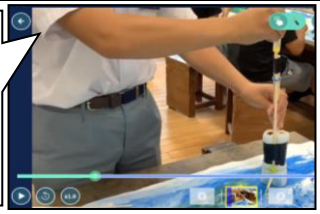
1　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　「生かす」段階における鑑賞の活動の工夫

授業の実際　〔第２学年　まどから　こんにちは〕〔第６学年　おもしろ筆〕

①　自分の作品を見つめる（タブレット型端末の活用）

完成した自分の作品を、視点をもって見つめる活動を設定した。作品の説明や自分の思いが作品を見る人に伝わるように、写真や動画、テキスト等、最適な方法を選択して表すことができるようにした。（○…成果　●…課題）

<table>
<tr><th></th><th>〔第２学年　まどから　こんにちは〕</th><th>〔第６学年　おもしろ筆〕</th></tr>
<tr><td>見つめる視点</td><td>窓の開き方や形、色、窓の中やその周り等をつくったときにこだわったこと</td><td>「おもしろ筆」の形状や機能、筆跡等、自分がつくりだしたおもしろさの特徴</td></tr>
<tr><td rowspan="2">写真とテキストを使ったまとめ</td><td>
  </td><td> 
  </td></tr>
<tr><td colspan="2">○　作品の特徴がよく分かる写真に、テキスト（文字情報）で説明を加えることで、特に見てほしい部分を強調することができた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">動画を使ったまとめ</td><td> </td><td>  </td></tr>
<tr><td colspan="2">○　窓の開閉や筆の使い方等、作品の動きや仕組みの特徴をそのまま捉えることができた。
○　実演しながら話すためには、自分の作品の特徴を捉える必要がある。そのために自分の作品を見つめることが、自分にとっての意味や価値を自覚することにつながった。</td></tr>
</table>

②　仲間と対話しながら自分や仲間の作品を見つめる

題材計画の「生み出す」段階において、仲間と対話することができるような活動を題材のゴールとして設定した。ゴールの活動では、①でそれぞれがまとめたものを、視点をもって画面上で確認させたうえで、実際の作品を見たり動かしたりしながら見つめさせた。作品を見て気付いたよさについては、テキストや言葉で製作者へ伝えさせるようにした。

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>〔第２学年　まどから　こんにちは〕</th><th>〔第６学年　おもしろ筆〕</th></tr>
<tr><td colspan="2">ゴールの活動</td><td>「全員分の窓を並べて１つの作品（おひさまどランド）をつくる」</td><td>「完成した筆を仲間に試してもらう」</td></tr>
<tr><td rowspan="2">①でまとめたものを画面上で確認する</td><td>見つめる視点</td><td>作品を比べながら見て、形や色、イメージ等が似ているところ</td><td>筆の形や機能、筆跡等、自分がおもしろさを感じるところ</td></tr>
<tr><td></td><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">●　手元で繰り返し確認することができるよさはあるが、時間の確保が課題だった。画面上での確認が、この後の活動において有効であったかどうか検証し、活動内容を精選する必要がある。</td></tr>
</table>

作品を見たり動かしたりしながら見つめる	 青や水色の窓を集めて、空コーナーにしたらどうかな。 このおひさまも空コーナーに入れよう。 窓を立ててみたいな。 こっちも試してみてね。持ちやすくて描き心地がいいよ。 上の棒を回すと筆先が回転する仕組みだよ。円を描くことができるよ。 ○　近くにいる複数の仲間と、作品を介して対話する様子が見られた。 ●　２年生では、一人での活動に夢中になる子どもの姿も見られた。作品と対話することにより、見方や感じ方は広がっていたものの、教師の意図とは、ずれがあった。
気付いたよさを製作者へ伝える	かぼちゃの窓いいね！目の形も上手に切れている！ オレンジ色でハロウィンっぽい！にぎやかでいいね。 【作品】 スタンプで描くのもいいなと思いました。目玉も可愛くてハロウィンなどに使うとよさそうだなと思いました。筆もスーッと描けて気持ちよかったです。 【仲間から受け取ったテキスト】 ○　２年生は、それぞれの作品を並べるために、互いの作品についての気付きを言葉で伝え合うことができていた。 ○　６年生は、気付いたよさをテキストに記入し製作者へ送信することで、それを受け取った製作者は、記録として残すことができ、③の活動に生かすことができた。 ●　自分の見方や感じ方の広がりや深まりを実感できたかどうかについては把握できなかった。

③　気付いたことや感じたこと、考えたこと等を記述する

①②を経て、気付いたことや感じたこと、考えたこと等を記述させ、新たな発見があったことに気付かせることで、見方や感じ方の広がりや深まりを実感することができるようにした。

	〔第２学年　まどから　こんにちは〕	〔第６学年　おもしろ筆〕
気付いたこと感じたこと考えたこと等	友だちは、色紙がちがったり、形がちがったりしていて、このはっそうすごい！と思いました。 みんな、にたようなまどであつめたけど、それぞれひらきかたや色がちがっていたので、そうぞうのしかたが、一人一人ちがうとわかりました。 【自分で書いたテキスト】	 【作品】 みんな、スタンプのことをちゃんと見ていてくれて、頑張って作ったかいがあったなぁと思いました。また、こんな時に使ったらいいんじゃないかということまで教えてくれたので嬉しかったです。 みんなそれぞれ面白く、発想豊かな筆があって驚いたり楽しんだりしました。意外な道具を使っていたり、とにかく面白かったです！ 【自分で書いたテキスト】
	○　仲間との活動を楽しみながら、自分とは違う見方や感じ方のよさに気付くことができた。 ●　自分の見方や感じ方の広がりや深まりを実感できたかどうかについては把握できなかった。	

【考察】

写真や動画、テキスト等の活用により、子どもは、作品の特徴を捉えながら作品の説明や作品への思いを表すことができた（①）。このことから、子どもは自分にとっての意味や価値を自覚することができたといえる。また、ゴールの活動における仲間との対話を促すために、仲間の作品を見つめる視点を与え、画面上で作品の特徴を捉えさせるようにしたが、実際は、画面上で確認していない作品についても積極的に手に取り、その特徴等について仲間と対話する様子が見られた（②）。このことから、画面上で作品の特徴を確認するよりも、実際の作品を見たり動かしたりする方が対話のきっかけになるということが明らかになった。さらに、子どもの記述（③）から、仲間と対話できるようなゴールの活動をとおして、仲間とかかわることの楽しさや、自分とは違う仲間の見方や感じ方のよさを味わうことができたといえる。今後は、ゴールの活動の前後で自分の見方や感じ方がどのように変化したのかを把握する手立てについて考えていく必要がある。

今年度の研究のまとめ

１　子どもが「学びをつなぐ」ための学習指導の在り方

⑴　「生かす」段階における鑑賞の活動の工夫

○　自分の作品の説明や作品への思いを表すために、写真や動画、テキスト等から最適な方法を選択して表現することは、自分にとっての意味や価値の自覚につながる。

○　実際の作品を見たり、手に取って動かしたりする活動は、仲間との対話を生み出すことにつながる。

●　全ての子どもがゴールの活動のねらいを把握し、必然性をもって活動できるような仕掛けが必要である。

●　自分の見方や感じ方の変化を把握する手立てについて考えていく必要がある。

参考文献：教えない授業　美術館発、「正解のない問い」に挑む力の育て方　　鈴木有紀　英治出版　2019